Architectural Institute of Japan

【カテゴリーⅠ】

日本建築学会計画系論文集　第567号，45-51，2003年5月
J. Archit. Plann., AIJ, No. 567, 45-51, May, 2003

# 詩的形式に関する研究

## 環境の〈詩性〉に関する研究　その4

# STUDY ON POETIC FORM

## Study on poetic-imagery of environment　Part 4

高木清江*，松本直司**，瀬尾文彰***
*Kiyoe TAKAGI, Naoji MATSUMOTO and Fumiaki SEO*

In this paper, the pattern of the poetic image structure was classified. First of all, the idea 'Position of the code' was instituted. Next, the combination of 'Position of the code' and 'Poetry pattern of the image' was considered. And, the pattern of the combination was called 'Poetic form'. 12 "Poetic forms" were found existing from the poetic image structure investigation. 2 new forms found throught consideration and it was shown that at least 14 forms exist.

***Keywords :*** *poetic-imagery , position of the code, poetic form*
〈詩性〉，コードのポジション，詩的形式

## 1．はじめに

前稿[1]において，詩的イメージ構造の調査を行い，結果の分析から，日常的なイメージ構造を逸脱したものが詩的イメージ構造であることを明らかにした。

それによると，「理解しがたい（言葉にあらわしがたい）が，何かを感じるという詩の特異な性質は，言語の組み合わせ方の工夫や変形などによるものである。言語の制度的な枠ぐみにならされている我々には，そのような新しい言葉の用い方が新鮮で魅力的にみえ，詩的イメージとして感じ取られる場合があるのだと考えられる。このような関係は，環境のイメージにおいても同様である。」[1]「詩的イメージという特異なイメージは存在しない。イメージ構造の特殊な関係から生起する，言葉になりがたい心の現象を詩的イメージと呼ぶのである。」[1]

そして，詩的イメージ構造には複数の類型が存在することを示し，それを『イメージの詩化パターン』と呼び，調査結果の分析を通じて8種類の『イメージの詩化パターン』を抽出した[注1)注2)]。

本論では，前稿[1]の調査結果をもとに，イメージを生起させる物的要素（以下環境要素と呼ぶ）とイメージの関係について分析を行い，環境要素の形態や配置のあり方と『イメージの詩化パターン』がどう関わるかを明らかにし，環境のイメージ計画に資する。

## 2．イメージコード

通常，同一の慣習や文化のもとにあるグループでは，一定の対象条件に対して同じようなイメージを抱く傾向がある。文化の一環として，イメージの感じ方がゆるく制度化されているからである。この制度に相当するものをここではイメージコードと呼ぶことにする。詳しくは「詩的イメージ構造の特性　環境の＜詩性＞に関する研究　その3」の2-1イメージコードを参照されたい。

カウボーイやカウボーイのかぶるテンガロンハットは西部劇を思い起こさせる。つまり西部劇のイメージに対応している。馬，荒野，丸太小屋，幌馬車，ハシラサボテンなども同様である。これらの環境要素各々とイメージ[西部劇]の対応関係は，われわれの文化の中で制度化している，つまりコード化していると言える。

ここで，イメージ[西部劇]と環境要素集合[カウボーイ，テンガロンハット，馬，荒野，丸太小屋，幌馬車，ハシラサボテン・・等]の対応関係を＜西部劇コード＞と呼ぶことにする。特定のイメージを生起させる環境要素の集合とそのイメージとの対応を一つのイメージコードと捉え，イメージ名を付してイメージコード名とするのである。

一つの環境要素は唯一つのイメージコードに属するとは限らない。むしろ，＜Aコード＞にも属し，＜Bコード＞にも属するというよ

* 愛知産業大学造形学部建築学科　非常勤講師・博士(工学)　Lecturer, Dept. of Architecture, Faculty of Architecture and Design, Aichi Sangyo University, Dr. Eng.
** 名古屋工業大学大学院社会工学専攻　教授・工博　Prof., Graduate School of Architecture, Civil Engineering and Management, Nagoya Institute of Technology, Dr. Eng.
*** 大同工業大学工学部建築学科　教授・工博　Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Daido Institute of Technology, Dr. Eng.



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

うに，幾つものイメージコードに属している可能性が高い。ハシラサボテンは，丸太小屋や幌馬車と共にあるときには＜西部劇コード＞で感じとられるが，様々な植物と並置されていれば＜植物園コード＞で感じとられるかもしれない。環境要素は一般に複数のイメージコードに属しており，どのコードで感じとられるかは，環境要素が置かれる状況に依存すると考えられる。

## 3．コードのポジション

図形の比喩で説明するために，図1における○をイメージ[○]，△をイメージ[△]と考えることにする。イメージ[○]を有する環境要素 a，b，c はいずれも＜○コード＞に属するが，これを比喩的に「＜○コード＞で結ばれている」という言い方が可能である。このとき，コードは環境要素を結びつける糸のようなものとイメージされている訳である[注3]。図1全体からイメージ[○]が強く浮かび上がるとすれば，そう感じた人が＜○コード＞の糸を引き寄せたためだと，比喩的には考えられる。それは＜○コード＞が顕在化することである。

イメージ[○]を有し，イメージ[△]も有する環境要素 c には，＜○コード＞と＜△コード＞の2本のコードの糸が乗せられている。それは2種のコードの顕在化の可能性を示している。2つのコードの糸が乗せられていても＜○コード＞しか感じ取られない場合もある。この場合，環境要素cの上に存在する＜○コード＞は顕在化しているが，＜△コード＞は潜在性のままにとどまっていると言える。コードの糸を引く，引かないの比喩の区別はこの2種類の区別に対応している。

1つの環境要素や一群として認識される環境要素群の上に複数のコードが顕在化するとき，顕在化したコードの間になんらかの関りが生じる場合がある。また，単一のコードといえどもそれがコードの特殊な状態として認識される場合もある。このように，顕在化したコードやコード群のあり方を，位置や状態，関係という観点から捉えることができる。これらを一括して『コードのポジション』[注1]と呼ぶことにする。

『コードのポジション』はイメージの内容には触れず，コードに関する関係や状況のみを示している。一方，コードの所在と環境要素との関係は明らかであるから，コードと環境要素との関係を示したものだとも言える。環境要素との関係を示している点が重要である。なぜなら，この関係を逆にたどることによって，建築計画などの実践の場面で詩的イメージを物的関係へと変換させてゆく技術の可能性を含んでいるからである。

瀬尾はこの「コードのポジション」に関連して，環境要素が変形することでコードが変形するもの，1つのコードの上に他のコードが重なっているもの，コードが唐突にくみ合わさっているものがあるとし，それぞれ歪曲，交差，混淆と呼んでいる[2]。瀬尾の定義によれば，

「コードの歪曲とは，コードを歪めたり変形したり破壊したりすることにより想像力喚起の効果を生む型」[2]

「コードの交差は，2種類以上のコードを1つの対象上に共存させ，そこから生じるイメージの交差関係を通して効果を引き出す型」[2]

「コードの混淆は，別種のコードに属する複数の記号を並置し，イメージの混淆状態を生ぜしめるもの」[2]

である。

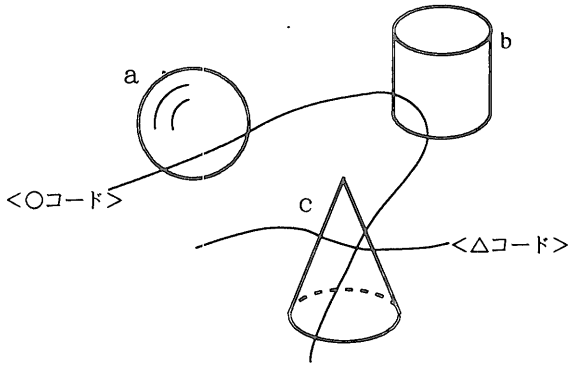



図1　顕在するコードと環境要素群の関係図

前稿[1]で示した詩的イメージ構造調査のデータを分析したところ，『コードのポジション』に関して同種の区別が認められた。そこで命名は瀬尾の分類にならうことにしたが，瀬尾の定義では分かりにくく不明確な点もあるため，それぞれについて明確に定義し直した。以下に示す。

I）歪曲

「コードの歪曲は，関係するコードが1つであり，それを歪めたり変形したりすることにより，詩的イメージを導く型。」

例えば，木が繁茂し，下が砂利の参道を歩いている。木々に触れ，自然を感じることにより気持ちが落ち着き，心地がいいと感じる。しかし，道を進むに従って，自分自身の気持ちがだんだん高揚し，参道の中の木々や道の様子は変わらないが，最初は気持ちがいいと思っていたにすぎない参道が，「風は透明なんだけど薄黄色とか水色なんかに見える感じ」「自分が・・・透明な感じ」などと感じ始めるとコードの＜歪曲＞がなされたことになる（インタビュー4：前稿[1]参照）。木々などの自然の要素とイメージ「心地よい」などの関係はコード化されているが，この関係が詩的方向に歪められているからである。

II）交差

「コードの交差は，同形異義の関係で，同一の環境要素に関わる複数のコードが相互に干渉しあい，詩的イメージを導く型。」

同一空間あるいは同一環境要素に関わることが重要な条件となる。そうでない場合は後述の＜混淆＞となる。例えば＜交差＞の例として，長いものに対して電車とうなぎという2つのイメージを導く同形異義の場合がある（インタビュー24：前々稿[3]参照）。

＜交差＞は見ている対象が重要なポイントとなってくる。同一空間に存在しても，見ている対象が異なる場合は＜交差＞ではなく＜混淆＞となる。同一空間内の＜混淆＞の事例は，天井に大きな窓の開いた，床は土や板がしかれているアトリウムのような空間にいるとするとき，天井を見て「空を飛んでいるみたい」「浮いている感じ」と思う。それとは対照的に，床を見て「地面の上にいる感じ」というイメージを導く場合が＜混淆＞の例である。必ずしもこのイメージが対照的になる必要はないが，見ている対象が異なっていると＜混淆＞となる。ただし，アトリウムという空間を1つの環境要素としてまとめて捉えることが適切と判断される場合もあり，その場合には，「浮いている感じ」と「地面の上にいる感じ」がアトリ



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

ウムという環境要素上で＜交差＞していると捉える。

Ⅲ）混淆

「コードの混淆とは，同一環境要素に必ずしも関わらない複数のコードが相互に干渉しあい，環境に詩的イメージを導く型。」

＜交差＞のように同一環境要素と関わる必要はない。＜交差＞の条件に合わないイメージの相互作用の場合は＜混淆＞だと言える。

＜交差＞と＜混淆＞の違いを比喩的に説明するための模式図を図2に示す。＜交差＞は円柱に2つのイメージの流れがある。見る角度を変えれば○にも見えるし，□にも見える。しかし，もとは1つのものである。見る角度によって見え方が違うのである。＜混淆＞は○と□の各々にイメージの流れがある。見る角度を変えても，○と□である。いずれの場合も○と□のイメージはあるが，元になる環境要素との関係が違っている。これが，＜交差＞と＜混淆＞の違いである。

図3に各コードのポジションに関する絵画の事例を示す。歪曲の事例はピカソの絵である。この絵では顔の構成要素はばらばらにされ，それらがを再構成され，結果として顔のコードがゆがめられている。中央の絵は見方によってはうつむいている老婆にも見えるし，向こうを向いている少女にも見える。同時に老婆と少女を捉えることはできない。両者は同一の空間内に存在している。つまり，老婆と少女のイメージコードが交差している。混淆の例では若い娘と骸骨が並列に組み合わされている。異なる要素から生起する2つのイメージ生と死が対比的に置かれている。

表1に＜歪曲＞＜交差＞＜混淆＞の定義及び，記号的に図化したものを記す。

＜交差＞では物的対象をどのレベルで捉えるかが問題になるので，見方によって＜交差＞と＜混淆＞の区別がつけ難い場合もあるが，インタビューを行った結果の解釈から，どのように見分けることが妥当であるかを判断した。

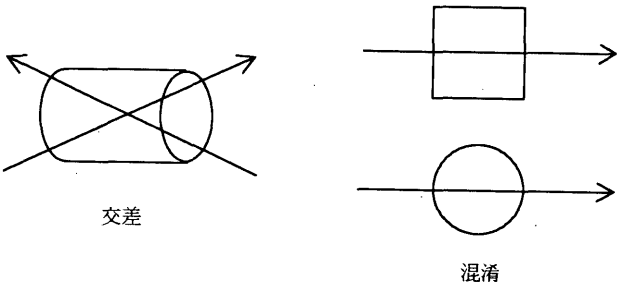



図2　交差・混淆模式図

歪曲　「ドラ・マールの肖像」（ピカソ）
交差　「少女と老婆」（ボーリング）
混淆　「うるわしのロジーヌ」（アントワーヌ・ウィルツ）

図3　各コードのポジションに関する絵画の事例[2)注5)]

表1『コードのポジション』の定義および模式図

| 名称 | 模式図 | 定義 |
|---|---|---|
| 歪曲 | | 関係するコードが1つであり，それを歪めたり変形することにより，詩的イメージを導く型 |
| 交差 | | 同形異義の関係で，同一の環境要素に関わる複数のコードが相互に干渉しあい，詩的イメージを導く型 |
| 混淆 | | 同一環境要素に必ずしも関わらない複数のコードが相互に干渉しあい，環境に詩的イメージを導く型 |

4．『コードのポジション』の事例

調査結果から，各『コードのポジション』の事例を示す（図4）。

Ⅰ）＜歪曲＞

①インタビュー3：実家の納戸（前稿[1)]参照）

納戸の中は「薄暗く」，「狭く」，「静か」である。納戸は「長いトンネル」や「洞窟のような感じ」であり，一人ぼっちの遊び場には楽しい場所である。最初は怖くて中に入れないが，そこに長くいると，「先に何があるか，わくわくする」「冒険心をそそる」イメージへと深められる。暗く長細い空間の状態は変化しないがイメージだけがわくわく感に変わる，つまり［トンネルコード］や［洞窟コード］が詩的方向に歪められた結果である。

②インタビュー4：永平寺（前稿[1)]参照）

木々に包まれた参道を歩くにしたがって，「風は透明なんだけど薄黄色とか水色なんかに見える感じ」「自分が・・・透明な感じ」などと感じ，さらにその参道を進むと，「神秘的な」「無」といったイメージへと深められる。これは，参道の環境要素は何も変化しないが，参道を進むことによって自分の気持ちが高揚し，参道のイメージコードが詩的方向に歪められたと考えられる。

③インタビュー5：ナディアパークの地下

ナディアパークの地下は通路が曲がりくねってはいるが，明るく，店はガラスで仕切られているため，見通しもよい。どこにでもありそうなしゃれた店舗のイメージである。しかし，何故かいつも迷ってしまう。「開いているのに迷う」「迷路って感じしないけど迷う」というところから，「あれっ」「不思議だよね」と感じる。しゃれた店舗の状態は相変わらずなのに，気持のほうは詩的方向に高揚していく。イメージコードの＜歪曲＞と考えられる。

④インタビュー14：マルチメディア工房

この建物は一層であるが床面を半地下に降ろして，半地下の回廊に十分な光が供給されている。そのため，被験者は半地下のレベルに降りても，『地下』を『地下』と感じない。また，地下から直接屋上へと通じる階段があり，そのことから「それを登っているとどのレベルに自分がいるのか分からなくなる」というとまどいのイメージが導かれている。それが「うっうーってびっくり」という言葉で表現される。イメージコードの＜歪曲＞と考えられる。

Ⅱ）＜交差＞

①インタビュー2：大江の川

この川は普段は汚いどぶ川であり，都会の汚い川であるというイメージを抱いていた。しかし，ある日，その川が夕焼けに染まって，「きらきらして」「ガラス玉がキラキラしている感じ」「降り注いでくる感じ」というイメージを被験者は受けた。いつもの『汚い』川のイメージが，夕日によって『綺麗』なイメージへと突然変わり



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

びっくりした，今のは何だったのだという驚きのイメージが導かれている。『汚い』『綺麗』の相反する２つのイメージコードの（環境要素『川』における）＜交差＞である。

②インタビュー６：ナディアパーク（前稿[1]参照）

複合商業ビルである名古屋市栄のナディアパーク。店の中は商品を明るく照らしている。被験者はある日の夕方，幾つも店を見て回った後，中央部分のアトリウムに出た。そこは暗く，被験者はその暗さのあまり外に出てしまったかと一瞬思った。屋内にいるはずなのに屋外だと感じたことによって，『中』のイメージと『外』のイメージを同時に感じることによって，錯覚・衝撃のイメージが導かれた。内・外二つのイメージコードの（環境要素『アトリウム』における）＜交差＞である。

③インタビュー24：シュタデルホーヘン駅（前々稿[3]参照）

駅には改札が無く，歩道からそのまま駅のホームに入ることが出来る。そのために，「歩道を歩いていると思っていたら，いつの間にか駅の中に入っていた」というようなことになり，『意外』といういうイメージが導かれている。駅が『駅』であり，さらに『歩道』でもあるという，イメージコードの（環境要素『シュタデルホーヘン駅のホーム』における）＜交差＞である。

④インタビュー９：アメリカの山小屋

道に迷い疲れ果て山小屋に到着したときは包んでくれるような感じ「お母さん」というイメージであったのに，翌日出発するときには，がんばってこいよという雰囲気の「お父さん」的なイメージであった。同じものが二つの異なるイメージを与えるこの体験は「はっ」とする体験である。イメージコードの（環境要素『山小屋』における）＜交差＞である。

⑤インタビュー10：豊田市美術館

美術館の『エントランス』において，一方では「浮いてない，ちゃんと地に着いている感じ」というイメージと，もう一方で「海の中にいるような」「海の中を途中でくりぬいたような中にいる」イメージが導き出され，この同一空間からのイメージが一方は地に足が着き，もう一方は水中に浮遊するという相反するものであるため「不思議」のイメージに至っている。イメージコードの（環境要素『エントランス』における）＜交差＞である。

Ⅲ）＜混淆＞

①インタビュー１：静岡の街路

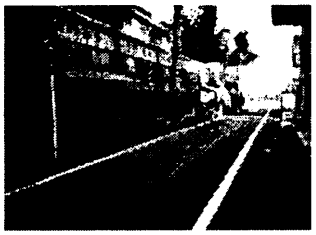
『小道』の「ごちゃごちゃ」「狭さ」「古さ」と，『表通り』の「広さ」「明るさ」という異質なイメージ同士がぶつかり合い，「急に落とされたって感じ」「はって感じ」「あれって感じ」といった詩的イメージが導かれている。『小道』と『表通り』の二つの環境要素から生起する異質なイメージの干渉であり，二種のイメージコードが＜混淆＞の『ポジション』をとっている。

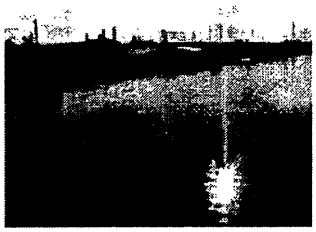
②インタビュー12：APCビル

東京代官山のファッションビル内にある店は，外の「ざわざわ」「忙しい」イメージの関与により，「独特の空間」「きれいに暗い」イメージがある。「きれいな暗さ」のイメージに（外を象徴する）『大きな扉』のシンボル的なイメージが関与することによって「きれいな暗さ」が強調され，「つけると暗くなる電球」というそれ自体詩的な言葉が導かれている。『お店の中』と『大きな扉』，１つの空間にはあるが異なる２つの環境要素の上に位置する異質なイメージコードの＜混淆＞である。

③インタビュー15：新美南吉記念館

『館内』のコンクリートの暗い展示室から「無機質のイメージ」「地下鉄のイメージ」「怖い」などのイメージがある。一方，『館外』の芝生や木々や波打つ丘などから「あたたかい」「生命を感じる」。『館内』と『館外』のイメージの対比が極端であり，そこに

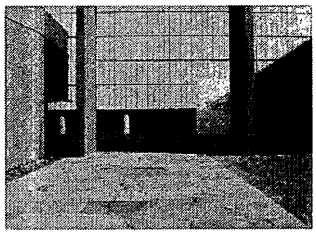

1．静岡の街路（小道）


2．大江の川

4．永平寺

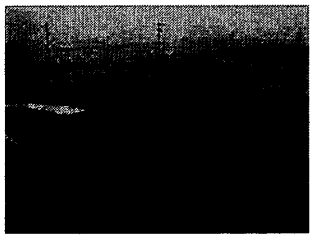
5．ナディアパークの地下

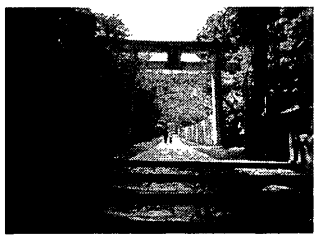
6．ナディアパーク

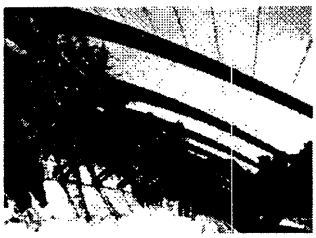

10.豊田市美術館

12．ＡＰＣビル

14.マルチメディアエ房


15.新美南吉記念館


16.金刀比羅宮


24.シュタデルホーヘン駅

25.アルハンブラ宮殿

図４　『コードのポジション』の事例写真



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

何らかの面白さを感じている。『館内』と『館外』に位置する異質なイメージコードの＜混淆＞である。

④インタビュー16：金刀比羅宮

金刀比羅宮は大きな神社であるために，活気のある『商店街』，石畳の『広い参道』，木々が多く道が折れ曲がっている『参道中腹部』，『階段』等の部分に分けられる。それらのイメージの相互作用から「驚き」「おもしろい」「自分も自然も一体化」というイメージが導かれている。さらに，『頂上』の「雲の上にいるような感覚」が合わせられて「感動」が導かれている。『商店街』『広い参道』『参道中腹部』『階段』『頂上』に位置する異質なイメージコードの＜混淆＞である。

⑤インタビュー25：アルハンブラ宮殿

『宮殿の内部』は暗く複雑に折れ曲がっているために「期待感」「好奇心」をそそる空間である。また，壁には幾何学模様の彫り込みがあり「不思議」な空間でもある。庭の『噴水』は見る方向によって水の見え方が違うため「おもしろい」と感じられる。「期待感」「好奇心」「不思議」「おもしろい」というイメージの相互作用から「意外」「はあっ」というイメージが導かれている。『宮殿の内部』と『噴水』に位置する異質なイメージコードの＜混淆＞である。

## 5. 詩的形式

インタビュー調査結果をもとに，詩的イメージには幾つかの型があり，それらを『イメージの詩化パターン』と『コードのポジション』の２種類の軸に沿って分類できることを示した。ここではその２軸をマトリクス的に関係付けることを試みる。表２にインタビュー調査において求められた各々の事例がマトリクス中のいずれのセルに属するかを示した。この表によって，インタビュー調査から得られた結果の位置づけを明確に見ることができる。

『コードのポジション』の＜歪曲＞は『イメージの詩化パターン』の＜生成＞＜変容＞との関係で現れている事例があることが表より分かる。そして，＜交差＞は，＜対比＞＜矛盾＞＜複合＞＜強調＞にみられ，＜混淆＞は＜収束＞＜対比＞＜矛盾＞＜複合＞＜強調＞＜転換＞にみられた。

『イメージの詩化パターン』において多く見られた事例は，＜生成＞＜変容＞＜対比＞＜複合＞であった。『コードのポジション』においては，＜歪曲＞＜混淆＞の事例が多く見られた。

＜交差＞／＜対比＞，＜交差＞／＜強調＞，＜混淆＞／＜収束＞，＜混淆＞／＜矛盾＞，の事例は少なかった。また，＜歪曲＞／＜収束＞，＜歪曲＞／＜対比＞，＜歪曲＞／＜矛盾＞，＜歪曲＞／＜複合＞，＜歪曲＞／＜強調＞，＜歪曲＞／＜転換＞，＜交差＞／＜生成＞，＜交差＞／＜変容＞，＜交差＞／＜収束＞，＜交差＞／＜転換＞，＜混淆＞／＜生成＞，＜混淆＞／＜変容＞の事例は見られなかった。

ここで，『イメージの詩化パターン』と『コードのポジション』のマトリクス関係によって得られる各々のセルを『詩的形式』と呼ぶことにする。また，＜歪曲＞＜交差＞＜混淆＞をＸ，Ｙ，Ｚと表し，＜生成＞＜変容＞＜収束＞＜対比＞＜矛盾＞＜複合＞＜強調＞＜転換＞をⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ，Ⅵ，Ⅶ，Ⅷと表すこととし，ＸⅠのセルをＸⅠ形式，ＸⅡのセルをＸⅡ形式などと呼ぶことにする。

表２　詩的形式

| | | イメージの詩化パターン | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | Ⅰ生成 | Ⅱ変容 | Ⅲ収束 | Ⅳ対比 | Ⅴ矛盾 | Ⅵ複合 | Ⅶ強調 | Ⅷ転換 |
| コードのポジション | Ｘ歪曲 | ＸⅠ | ＸⅡ | | | | | | |
| | Ｙ交差 | | | | ＹⅣ | ＹⅤ | ＹⅥ | ＹⅦ | |
| | Ｚ混淆 | | | ＺⅢ | ＺⅣ | ＺⅤ | ＺⅥ | ＺⅦ | ＺⅧ |

図中に記号表示した部分のみ調査により事例の認められた形式である。
▒の部分は定義上存在しないと思われるセル。

調査結果から事例の得られた形式はＸⅠ，ＸⅡ，ＹⅣ，ＹⅤ，ＹⅥ，ＹⅦ，ＺⅢ，ＺⅣ，ＺⅤ，ＺⅥ，ＺⅦ，ＺⅧの 12 形式であった（表２参照）。

＜詩性＞の一連の研究に於いて，詩的イメージを，「心の奥に潜んでいるもの」「隠された意識」「我々のイメージファイルにはないもの」などと考察し，詩的イメージは特殊なイメージが存在するのではなく，「イメージ間の特異な関係」に由来するとした。「イメージ間の特異な関係」には様々な型がある。その総称が『詩的形式』であり，各々の型をＸⅠ形式，ＸⅡ形式などと呼ぶのである。

時代を経るに従って，斬新であったイメージが陳腐なイメージとかし，我々の日常的なイメージが変化するということは多々あることである。しかし，『詩的形式』は『イメージの詩化パターン』と『コードのポジション』によって成り立っている。そのため，日常的なイメージが時代を経るにしたがって変化し，詩的イメージの内容が変化したとしても，『詩的形式』は基本的に変化することがないと考えられる。

上述のように，本研究の調査においては，12 のセルに属する『詩的形式』の事例が見出された。しかし，調査結果によって，セルが埋まらないところもある。この部分についてどのように考えたらよいか，次にそれを検討する。

『イメージの詩化パターン』のうち，＜生成＞＜変容＞はイメージの流れが１つであり他のイメージと交錯することのないものである。そのため，コードを異にする複数のイメージの流れが相互に干渉する＜交差＞＜混淆＞と＜生成＞＜変容＞の組み合わせは定義上ないと考えられる。

＜矛盾＞は，例えば「中なのに外の感じ」「歩道を歩いているのに歩道でないと感じる」などと，言葉において矛盾が見られる。そのため，＜歪曲＞であるように思われるかもしれないが，我々の持っている日常的イメージとの比較や，周りのものとの関係において＜矛盾＞を感じているのであり，イメージの流れは１つではないと言える。したがって＜矛盾＞と＜歪曲＞の組み合わせはないと考えられる。また，＜収束＞＜対比＞＜複合＞＜強調＞＜転換＞はイメージとイメージが合わせられて詩的イメージが導かれるために，イメージの流れが１つである＜歪曲＞との組み合わせが存在する可能性はこれもないと考えられる。

ＹⅢ，ＹⅧのセルについては調査結果のうちにこれに属する事例が見られなかったが，次の理由で存在可能性を推測できる。



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

ⅤⅢ（<交差>／<収束>の組み合わせ）形式について，インタビュー2の<収束>を例にとって考えてみる。この<収束>はいつもは汚い川であるが，夕日が当たることによって美しく見え「びっくりした」こと，普通は川は黒か水色であると考えられるがそれが赤色に見え「びっくりした」こと，黒い場所から急に明るい場所に行って「びっくりした」ことの<収束>である。これについて，黒い場所から急に明るい場所にでて「びっくりした」という部分を除いて考えてみることが出来よう。すると，いつもは汚い川であるが，夕日が当たることによって美しく見え「びっくりした」こと，普通は川は黒か水色であると考えられるがそれが赤色に見え「びっくりした」ことの2つが<収束>し，『コードのポジション』は<交差>になる。そのように考えると，この事例は存在するのではないかと考えられる。

次にⅤⅧ（<交差>／<転換>の組み合わせ）形式について考える。インタビュー 13 の新宿の喫茶店においては，喫茶店の「公園って感じ」「安全みたいな」「落ち着く」などに新宿のイメージが<転換>として関与している。ここで新宿のイメージを取り払って，喫茶店のみのイメージで見てみると，「橋みたいに浮いている感じ」「電車が下を流れている川みたいに」という喫茶店のイメージがイメージ「公園って感じ」に<転換>として関与する可能性もあると考えられる。この場合の<転換>後のイメージは，例えば「不思議な空間」にでもなるのではないかと思われる。「公園って感じ」は喫茶店のことであり，「橋みたいに浮いている感じ」というのも喫茶店のイメージである。このことから，『コードのポジション』は<交差>と考えられ，<交差>／<転換>の組み合わせが成立すると考えられる。

以上，詩的イメージを導く『詩的形式』について述べた。現時点では，ⅩⅠ形式，ⅩⅡ形式，ⅤⅢ形式，ⅤⅣ形式，ⅤⅤ形式，ⅤⅥ形式，ⅤⅦ形式，ⅤⅧ形式，ⅢⅢ形式，ⅢⅣ形式，ⅢⅤ形式，ⅢⅥ形式，ⅢⅦ形式，ⅢⅧ形式の 14 の『詩的形式』があることを考察した。調査の量的限界もあり，これですべての『詩的形式』をつくしたとは言えない（今後の調査によって新たな形式の発見があるかもしれない）が，『詩的形式』の基本的なパターンとしてのありようを把握することは出来たと考える。

## 6. まとめ

『イメージの詩化パターン』と『コードのポジション』を横軸と縦軸とするマトリクスによって示される両者の関わり方として詩的イメージ構造のパターン分類を行い，それを『詩的形式』とした。調査結果からは 12 の『詩的形式』が存在することが見いだされた。しかし，他にも存在する可能性があり，少なくとも 14 の『詩的形式』が存在することを考察によって示した。

『詩的形式』はイメージ構造におけるイメージコードの逸脱形式であり，『詩的形式』が存在することによって詩的なイメージ構造が成り立っている。逆に，『詩的形式』が存在しないイメージ構造は日常的なイメージ構造である。このことから，『詩的形式』を明確にしたことにより，詩的イメージ構造の特性を明らかにしたと言える。

以上をまとめて，①詩的イメージ構造の特性は『詩的形式』という幾つかのパターンによって理解できる。②『詩的形式』は『イメージの詩化パターン』と『コードのポジション』から導かれたものである，と結論づけることが出来る。しかし、調査より導き出された『詩的形式』は被験者 25 名によるものであり，今後さらに調査を続けることによりあらたな『詩的形式』が導かれる可能性も有る。

本研究は，現代の都市・建築が画一化と通俗的頽廃の現状から脱却するためには詩的イメージに依拠することによってそれが図れると考え，詩的イメージの基本的な構造を明らかにし，詩的環境計画理論の構築に資することを目的とする研究である。建築家やデザイナーの感性で都市や建築を魅力的かつエキサイティングな環境にすることに成功している場合もある。感性に頼ることは設計者の考え方や感じ方が出てくるもので，すぐれた都市や建築を創る上で重要な一側面であると考える。しかし，個人の感性のみに頼るのではなく，魅力的な都市・建築を創るための体験的な手法を確立し，これによって詩的な環境を得るというやり方もあり得るのではないか。それを探ってみようというのが本研究の立場である。

『詩的形式』を明らかにすることによって，詩的イメージを計画概念に転化してゆくための明確な一歩が刻まれ，今後の発展への端緒が開かれたと言ってよい。

注

1）「イメージの詩化パターン」とは詩的イメージを形成する8つのイメージ構造特性であり，詳細については「詩的イメージ構造の特性　環境の<詩性>に関する研究　その3」の4．イメージの詩化パターンを参照されたい。表3はイメージの詩化パターンの定義と図表現を示したものである。

2）詩的イメージ構造調査のインタビューリストを表4に示す。

3）同一コードに所属する要素群をグループとして捉えやすい点は，視覚心理学におけるゲシュタルトの理論と共通するものがある。その都度どのコードを捉えたかを表現するのに「糸を引く」いう言い方を比喩として用いた。

4）英語の position には，位置や状態，関係などという意味があり，本論文で用いるポジションは，位置関係や状況を一括して含めた意味で用いられている。

表3　『イメージの詩化パターン』の定義及び構造模式図

| 名称 | 模式図 | 定義 |
|---|---|---|
| 生成 | 状況1 <生成> C | 状況1が他からの関与なくイメージCを生成せしめる |
| 変容 | A <変容> C | イメージAが他からの関与なくイメージCへと深まる<br>AがC'の場合もある |
| 収束 | A A <収束> C | 複数のイメージAが束ねられイメージCが導かれる<br>AがC'の場合もある |
| 対比 | A B <対比> C | 異なるイメージAとイメージBがぶつかり合って新しいイメージCが導かれる<br>A,BがC'C"である場合もある |
| 矛盾 | A B <矛盾> C | 同じ場所において相反するイメージAとイメージBが同時に存在しイメージCが導かれる<br>A,BがC'C"である場合もある |
| 複合 | A B <複合> C | イメージAとイメージBが複合されイメージCが導かれる<br>A,BがC'C"である場合もある<br>A,B 2つより更に数の多くなる場合もある |
| 強調 | A B <強調> C | イメージAにイメージBが関与することによってイメージAが強調されイメージCへと深まる<br>A,BがC'C"である場合もある |
| 転換 | A B <転換> C | イメージAにイメージBが関与してイメージAがイメージCに変化する<br>A,BがC'C"である場合もある |

A，Bは一般イメージを示し，Cは詩的イメージを示す。



NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

表４　インタビューリスト

| 事例番号 | 事例場所 | 性 別 | 調査年齢 | 体験年齢 |
|---|---|---|---|---|
| インタビュー１ | 静岡の街路 | 女 | ２２ | ２１ |
| インタビュー２ | 大江の川 | 女 | ２６ | ２０ |
| インタビュー３ | 実家の納戸 | 女 | ２２ | ８ |
| インタビュー４ | 永平寺 | 女 | ２２ | １８ |
| インタビュー５ | ナディアパークの地下 | 女 | ２２ | ２１ |
| インタビュー６ | ナディアパーク | 女 | ２２ | ２１ |
| インタビュー７ | 愛知県児童総合センター | 男 | ２３ | ２２ |
| インタビュー８ | アデレードの教会 | 男 | ２３ | ２１ |
| インタビュー９ | アメリカの山小屋 | 男 | ２３ | １７ |
| インタビュー10 | 豊田市美術館 | 女 | ２３ | １９ |
| インタビュー11 | インドメインバザール | 男 | ２２ | ２０ |
| インタビュー12 | APCビル | 女 | ２１ | １９ |
| インタビュー13 | 新宿の喫茶店 | 女 | ２１ | １８ |
| インタビュー14 | マルチメディア工房 | 女 | ２２ | １９ |
| インタビュー15 | 新美南吉記念館 | 女 | ２２ | ２０ |
| インタビュー16 | 金刀比羅宮 | 女 | ２７ | １５ |
| インタビュー17 | 東京国際フォーラム | 男 | ２４ | ２１ |
| インタビュー18 | タージマハール | 女 | ２６ | ２３ |
| インタビュー19 | ミラノのドーモ | 女 | ２１ | ２０ |
| インタビュー20 | 豊田市美術館 | 男 | ２２ | １８ |
| インタビュー21 | セントポール大聖堂 | 男 | ２２ | ２１ |
| インタビュー22 | 伊勢神宮 | 男 | ２４ | １８ |
| インタビュー23 | 関西国際空港 | 男 | ２２ | ２０ |
| インタビュー24 | シュタデルホーヘン駅 | 男 | ２３ | ２１ |
| インタビュー25 | アルハンブラ宮殿 | 女 | ２６ | ２１ |

５）瀬尾文彰：詩としての建築，現代企画室，1986

参考文献

１）高木清江・松本直司・瀬尾文彰：「詩的イメージ構造の特性　環境の詩性に関する研究　その３」，日本建築学会計画系論文集，第 537 号 pp133-140，2000.11
２）瀬尾文彰：詩としての建築，現代企画室，1986
３）高木清江・瀬尾文彰・松本直司：「<詩性>の研究方法に関する考察　環境の詩性に関する研究　その２」，日本建築学会計画系論文集，第 518 号，pp153-160，1999.4

(2002年６月６日原稿受理，2003年２月18日採用決定)



NII-Electronic Library Service